

春の風景

県立多可高等学校 校長室から

2025.02.27

Shun_Fujii@pref.hyogo.lg.jp



「49 回生の皆さん ご卒業おめでとう」 とともに

明日は卒業式 本日の予行も必ずうまくいきます

「教え子」 何と贅沢な響きの言葉なのでしょうか。

『多可高等学校で何のために学ぶのか』の答えを自分に問い続け、その答えを自身の手で探し当て、自らがこれから生きようとする社会に直面した人としての責任、平坦ではないであろう道をどんなことも乗り越える気構えで、上を向いて歩き続ける。そんな思いで進路を決め、そして間もなく卒業を迎えようとする生徒たちを先生方は全力で育ててこられたことと思います。

そして、教職という本当に恵まれた職業に就いていると、今改めて考えています。

「介護職に就いてご高齢の方の力になりたい」「医療の現場で、身体的にも精神的にも追い詰められた方、そしてその家族を助きたい」「理美容の仕事を通して、たくさんの方を笑顔にしたい、喜ばせたい」「地域の会社で、地元に貢献したい」「たくさんの方の前で歌いたい」……未来の可能性を一杯に秘めた素直な教え子たちが目の前にいます。しかし、生徒たちは先生方全員が保護者との連携で愛情をもって全力で手がけた教育により成長したのだと思っています。全力で手がけた教育というのは、人の痛みがわかる、様々な場面で人の心の内を想像できる、思いやりの大切さを根幹として伝え、愛情をもって体力や学力を鍛え、本気で褒め、本気で叱り、本気で励まし、協調性を保ちながら何事にも一生懸命になることの大切さを教えた教育です。

「1年勝負の学校教育」いつかの集会で話しました。

この年度この職員でこの年齢の生徒の教育に携わることができるのは、後にも先にもこの1年しかありません。だから、この職員団でできり限りの『最高』を目の前の生徒たちに施さねばなりません。世に存在する最も硬いダイヤモンドはダイヤモンドで磨かれるように、生徒は教職員によって磨かれ、また教職員は生徒によって磨かれる。原石が輝きを放つ瞬間を、輝きを増していく瞬間を見るために、学校は悩み、苦しみ、そして研究しあう場でありたいと思います。

もうすぐ、新しい1年勝負が始まります。